ストレス体験の意味づけがストレス後成長とアイデンティティに与える影響

○出井 壮二郎¹・津川 律子²

(日本大学大学院文学研究科¹・日本大学文理学部²)

キーワード: ストレス後成長, アイデンティティ, 意味づけ

Influence of meaning making stressful experiences on post-stress growth and identity.

Sojiro Idei¹ and Ritsuko Tsugawa²

(Graduate School of Literature and Social Science, Nihon Univ.¹, College of Humanities and Sciences, Nihon Univ.²)

Key Words: Post-stress growth, Identity, Meaning making

目 的

ストレス後成長とは、ストレス体験を機に遂げたと感じる成長と言われている。宅 (2005) は、体験の意味づけがストレス後成長を促す要因の1つであることとストレスを体験した領域で意味づけが与える影響が異なることを示している。山田 (2016) は死別経験後成長感に関する研究において、苦しい体験の回避がその後の成長を促す要因になる可能性を示唆している。堀田 (2013) は外傷後成長と挫折体験を通じたアイデンティティの変容では、意味づけの与える影響が異なることを示している。しかし、ストレス体験の意味づけからストレス後成長とアイデンティティの関連をストレス体験領域ごとに検討した研究はまだない。本研究では、体験の回避を取り入れたストレス体験の意味づけから、ストレス後成長とアイデンティティにおける差異を明らかにすることを目的とし、以下の仮説を立てた。仮説①体験の回避はストレス後成長とアイデンティティに関連がみられる。仮説②ストレス体験の意味づけがアイデンティティに与える影響は領域ごとに異なる。加えて、ストレス体験の意味づけが与える影響はストレス後成長とアイデンティティで異なる。

方 法

【分析対象】大学生215名に対して質問紙調査を実施、回答の不備またはストレス体験領域の選択がその他であった者を除外した173名 (男性83名, 女性90名, 平均年齢20.17歳)。
【使用尺度】i. ストレス体験領域を選択するチェックボックス: 先行研究 (宅, 2005) を参考に作成。ii. ストレス体験に関する自由記述。iii. ストレス体験に対する意味の付与尺度 (宅, 2005) ストレス体験に対する意味づけを測定する尺度 (13項目)。iv. 日本語版Acceptance and Action Questionnaire-II 7項目版《AAQ-II》(嶋ら, 2005): 体験の回避を測定する尺度, 項目の文章を一部変更(7項目)。v. ストレス体験をきっかけとした自己成長感尺度《ストレス後成長尺度》(宅, 2005): ストレス体験後の成長感を測定する尺度(30項目)。vi. 多次元自我同一性尺度《MEIS》(谷, 1997a;1997b;1998;2001): 自我同一性の感覚を測定する尺度(20項目)。

結 果

各尺度間のPearsonの相関係数を求めた。結果はTable 1に示す。分析対象者のストレス体験領域を自分・家族・学校・人間関係の4領域に分類した。各領域別にストレス後成長を基準変数, ストレス体験に対する意味の付与尺度とAAQ-IIを説明変数とした重回帰分析を行った。結果は、領域: 家族($\beta=.58, p<.001$)で、出来事を持つメッセージ性のキャッチに正の影響がみられた($\beta=.58, p<.01$)。領域: 学校($\beta=.37, p<.001$)で、出来事を経験した自己への評価にて正の影響がみられた($\beta=.40, p<.05$)。領域: 人間関係($\beta=.65, p<.001$)で、ポジティブな側面への焦点づけに正の影響($\beta=.45, p<.01$)、出来事を経験した自己への評価に正の影響がみられ

た($\beta=.24, p<.05$)。各領域別にMEISを基準変数, ストレス体験に対する意味の付与尺度とAAQ-IIを説明変数とした重回帰分析を行った。結果は、領域: 家族($\beta=.26, p<.05$)で、出来事を持つメッセージ性のキャッチに正の影響がみられた($\beta=.60, p<.01$)。領域: 学校($\beta=.26, p<.05$)で、体験の回避に負の影響がみられた($\beta=-.36, p<.05$)。領域: 人間関係($\beta=.42, p<.001$)で、体験の回避に負の影響がみられた($\beta=-.57, p<.001$)。

考 察

各尺度の相関からAAQ-IIとストレス後成長間で直接的な関連はみられなかったが、ストレス後成長の要因となるポジティブな側面への焦点づけにおいて負の相関がみられた。AAQ-IIとMEISの間にも負の相関がみられ、仮説①の一部が支持された。また、ストレス後成長とアイデンティティ間に弱いながらも正の相関がみられた。加えて、ストレス後成長はMEISの下位因子である対目的同一性・心理社会同一性との間に正の相関がみられた。

ストレス体験の意味づけが与える影響は、AAQ-IIが学校・人間関係領域においてMEISに負の影響を与えていることが明らかになった。つまり、ストレス体験への感情や思考を回避することは、ストレス体験の良い面に注意を向けにくくなり、アイデンティティの感覚を妨げることが考えられた。体験の回避において先行研究と異なる結果になったのは、先行研究と異なる尺度を用いたためであると考えられた。また、ストレス体験の意味づけがアイデンティティに与える影響は、領域ごとで異なる傾向がみられた。加えて、ストレス後成長とアイデンティティでは、ストレス体験の意味づけが与える影響が異なることが示唆され、仮説②が支持された。

以上のことから、両概念のメカニズムは異なるが、相関関係やストレス体験に対する意味づけが与える影響において、関連する傾向が部分的みられた。つまり、両概念は近接する概念であることが示唆された。

Table 1 各尺度のPearsonの相関係数									
	ストレス後 成長得点	ポジティブ な側面への 焦点づけ に対する評価	出来事を経験 した自己に 対する評価	出来事を持つ メッセージ性 のキャッチ	AAQ - II	MEIS 総得点	連続性・ 斉一性	対目的 同一性	対他の 同一性
ポジティブな側 面への 焦点づけ	.53**								
出来事を経験し た自己に 対する評価	.52**	.59**							
出来事を持つ メッセージ性の キャッチ	.64**	.65**	.50**						
AAQ - II	.02	-.17*	-.08	.05					
MEIS 総得点	.19*	.20**	.10	.20**	-.35**				
連続性・ 斉一性	-.06	.13	.03	.05	-.43**	.78**			
対目的 同一性	.29**	.18*	.11	.27**	-.17*	.77**	.36**		
対他の 同一性	-.01	.06	.02	.02	-.30**	.76**	.65**	.30**	
心理社会的 同一性	.39**	.26**	.16*	.30**	-.20**	.84**	.41**	.75**	.47**

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。